



2月13日(金)、西川喜代治新市長が市役所に初登庁しました。
『見える、聞ける、わかる市政』をスローガンに、人と地域を大切にする、明るく元気なまちづくりを皆さんと共に進めてまいります。

●特集 ②-⑤ 環境への取り組み 市民が点検・評価

- ⑤ 省エネ長者
- ⑥ お知らせ拡大版
- ⑦ タウントピックス
- ⑧ みんなで5・7・5
- ⑨ こころの絆
- ⑩ 教育委員会 information
- ⑪ 健康生活
- ⑫ びょういんだより
- ⑬ 国保年金あらかると
- ⑭-⑰ 情報おしらせ版
- ⑱ そうだ図書館に行こう♪
- ⑳ 窓口・納税
- ㉑ 歴史散歩

高島市

歴史散歩

No.51

ひな祭りとは「古雛展」

ひな祭りの由来

三月三日
の上巳の節句に、ひな人形を飾り、菱餅・白酒・桃の花などを供し家内の女兒の無事育成を祈る祭りを「ひな祭り」といいます。上巳とは三月始めの巳の日のことで、この日には、人形にケガレやワザワイをつつして川に流す行事が行われていました。この風習は遠く中国の漢の時代、今から二千年ほど遡るものといわれ、中国の古い風習と、日本古来のケガレを除くつとするミンギの行事が重なって生まれたといわれています。今でも、鳥取や和歌山で流し雛の行事が行われています。



立雛

ひな祭りの歴史

上巳の行事に使った人形は「ヒイナ」といわれています。平安時代、貴族の子女の間ではヒイナ遊びが行われ、時代が進むにつれて、立派な衣装を着けて調度品を配する遊びが「ひな祭り」に変化したと考えられています。

江戸時代の雛

江戸時代になると多くのお雛さまが登場してきます。まず、紙で作られた立雛をはじめ、内裏雛には寛永雛・享保雛・次郎左衛門雛・有職雛・古今雛と多彩です。



古雛

今日のひな祭り

お雛さまにはキャラクター雛なども加わり賑やかな一語につきますが、子どもの成長を祈る親心は不滅です。

(文化財課)

古雛展開催中!

高島 歴史民俗資料館では、現在「古雛展」を開催しています。ぜひ見学していただき、上巳の節句に思いを馳せてください。



▼期間
3月1日～3月31日
(休館日 月・火曜日)



ザゼンソウが開花。今年は例年並み。

編集後記

▼「今年のはたまたま」と思っていた猛暑や暖冬。最近「はたまたま」ではなくなっています。気象庁によると、日本の平均気温はこの100年で約1°C上昇しているそうです。人間にとって1°Cの違いは大して気にならないものですが、地球にとって1°Cの違いは大問題です。気温が1°C違えば、距離にして100km気候が変わるそうです。この100年で1°C上昇したという(1970年、100km赤道に近付いたこと)になります。今の高島市は、100年前の淡路島と同じ気候といえるようになります。高島に春の訪れを告げるザゼンソウ。自生地は日本の南限にあたります。年に1kmずつ気候が南へ変わるとなると、すいぶん暮らしてしまっているのだらうと想像してしまいます。幸い今年の開花は例年並みと聞く何となくホッとしますが、これが「はたまたま」でないことを祈らずにはいられません。温暖化という地球の微熱は、想像以上のダメージを伴います。早めの対策が何より必要です。1人の100歩より100人の1歩が、赤道への歩みを止めます。今日もひとりの環境にイイコトをしませんか? (広報担当)